



2015年4月14日

Salone del Mobile.Milano 2015 プレスリリース

第54回 Salone del Mobile.Milano (ミラノサローネ国際家具見本市) は4月14日(火)から19日(日)までの6日間、ロー・フィエラミラノにて開催されます。平日は**業界関係者のみ**を対象とし、**土日は一般開放**します。またサローネサテリテは会期中通して一般開放、入場無料です。

ルーチェとオフィスの年である今年の Salone del Mobile.Milano では、ルーチェの併催イベント、「フアヴィツラ」が市内のサン・フェデーレ広場にて、Workplace.3.0/サローネウフィーチョの併催イベント、ミケーレ・デ・ルッキの「The Walk」は見本市会場内で、そして、見本市開催と同時に発表される新しいアプリ「IN ITALY」では、イタリア企業 64 社が結集、各々の商品が誕生するまでの秘話が明かされます。

< 全見本市共通 >

場所:ロー・フィエラミラノ

日時:2015年4月14日(火)-19日(日)

時間:9:30-18:30

*平日の入場は業界関係者に限る。土日は一般解放。

**サローネサテリテは会期中通して無料一般開放。一般入場口はカーゴ5番。

全見本市出展社数:2,106社 + サローネサテリテ参加デザイナー数 700人

全見本市出展面積:201,700 m²

全見本市会場面積:340,000 m²



< 各見本市 >

【第 54 回 サローネ国際家具見本市 (国内 54 回目、国際 37 回目)】

【第 29 回 サローネ国際インテリア小物見本市】

出展品:

- 寝室用家具 (ベッド、ワードローブ)
- リビング・ダイニング用家具 (ソファ、テーブル・椅子、収納)
- 玄関用家具、子供用家具、ガーデン用家具、小物家具
- い草・藤家具
- 装飾素材

- 同業種の新聞、雑誌、広告会社関連サービス

出展社数: 1,504

出展パビリオン: 1-8, 10, 12, 14, 16, 18, 20

出展面積: 152,200 m²

プレスギャラリー: Corso Italia / レセプション パビリオン 5, 6, 7, 9, 10, 11

開催年: 毎年

* 2015 年トレンド分析を別ページにて紹介



【第 28 回 エウロルーチェ: サローネ国際照明見本市】(隔年開催)

あらゆるシチュエーションに最適なイルミネーションの提案

出展品:

- 屋内照明、野外照明
- 工業用照明
- ショー/イベント用照明
- 医療現場用照明
- 照明システム、光源
- 照明技術のソフトウェア/コンサルティング会社
- 同業種の新聞、雑誌、広告会社

出展社数: 475 社

出展パビリオン: 9, 11, 13, 15

出展面積: 38,000 m²

プレスギャラリー: パビリオン内

開催年: 隔年

* 2015 年トレンド分析を別ページにて紹介



【第 17 回 Workplace3.0/サローネウフィーチョ】(隔年開催)

革新的でスタイリッシュなオフィススペースの新しいコンセプト展示

出展品:

- 各種オフィス対応家具(銀行、保険会社、郵便局等も含む)
- 各種オフィスセキュリティ設備
- 冷暖房空調機器
- オフィス小物、照明、音響、映像
- オフィス関連組合、同業種の新聞、雑誌、広告会社関連サービス

出展社数:127 社

出展パビリオン:22,24

出展面積:11,500 m²

プレスギャラリー:パビリオン内

開催年:隔年

関連イベント

- ミケーレ・デ・ルッキによる特別展示「The Walk」* 別途説明
- 「The Walk」内「アゴラ」にてセミナー開催

14 日(火)

15:00「ワークスペースのクオリティーについて」

登壇者:マルコ・プレダーリ、ヤコポ・アッチャーロ、ステファノ・ボルドーネ、クリスティーナ・クトローナ、レンツォ・カイミ、アレッシオ・ベッリン

司会:レナータ・シラス

15 日(水)

11:00「オフィス部門におけるインダストリアル・デザイン」

登壇者:マルコ・プレダーリ、ルチアーノ・ガリンバルティ、マルコ・ボネット、アンジェロ・コルテージ、ダニエロ・プレモーリ

15:00「足並み揃えてレッツゴー！」

登壇者:ミケーレ・デ・ルッキ

16 日(木)

11:00「ワークプレースの発展」

キュレーション:IED ヨーロッパ・デザイン学院

登壇者:ノーラ・トレンティーニ、キアラ・コスタンツェッリ / RBSGROURP

15:00「オフィス・デザイン」



キュレーション:ミラノ工科大学 デザイン学科、ポリデザイン協会
登壇者:ジョルジオ・ダル・ファブロ、ミケーレ・ダル・オルト、ヤコポ・デッラ・フォンターナ、シルヴィア・ピアルディ、マルコ・プレダーリ、レナータ・シアス、シルヴィア・ティエギ
司会:フランチェスコ・スクッリカ

17 日(金)

11:00「人間らしいオフィス環境作り」

登壇者:マリア・ヴィットリア・カピタヌッチ

15:00「シネマ・オフィス」

登壇者:ダリオ・ディ・インチェルティ、ジュゼッペ・ヴァルケッタ

18 日(土)

11:00「シンボリック・フィギュア」

登壇者:マルチェット・キアレンツァ

15:00「究極のオープンスペース」

キュレーション:NABA

登壇者:スバシュ・ムカージー、ルカ・マクリ、エマヌエレ・ロメット

司会:ルカ・ポンチェッリーニ



【第 18 回サローネサテリテ】

参加デザイナー:700 人

参加国際デザイン学校:18 校 + ADI (インダストリアルデザイン協会)

出展パビリオン:22,24

出展面積:2,865 m²

開催年:毎年

プレスオフィス:南口サービスセンター2 階

出展者リスト:<http://salonemilano.it/en-us/PRESS/Exhibitor-list-2015>

昨年、コンパツツ・ドーロ賞を受賞したサローネサテリテは、今年、イタリアでは成人となる年齢、18 周年を迎えます。ミラノ万博を前に、同じ食をテーマにした 4 つのインスタレーションと共に、パビリオン 22,24 号館の奥(一般はカーゴ 5 番)より、会期中通して無料で入場していただけます。

18 年間で、その名を不動のものとしたサローネサテリテ。これまでに参加した 10,000 人以上の若手デザイナーの中から、今や世界に名を馳せるデザイナーを多く輩出してきました。その中から、ほんの一例を挙げます:

イタリア:トマーゾ・ナーニ、フランチェスカ・ランツァヴェッキヤ、スタジオ・アドリアーノの兄弟

日本:ネンド、YOY

ドイツ:セバスチャン・ハークナー

ビッグ・ゲーム・スタジオ:オーガスティン・スコット・ドウ・マーティンヴィル、エルリック・ブティ、グレゴアール・ジャンモノ

スウェーデン:ヨハン・リンドステン

ノルウェー:ダニエル・ライバッケン

アメリカ:田村奈穂

インド:アヴィナッシュ・シェンド

アルゼンチン:フェデリーコ・チュルバ

ブラジル:ペドロ・パウロ・フランコ

その他、各国からデザイン学校も 270 校以上参加しました。

● 今年の参加デザイナー700 人を厳選した選考委員

ロレンツォ・アロージオ/ グラス・イタリア

ステファノ・ボルドーネ/ クンダリーニ、アッソルーチェ会長 (FLAE 社の照明部門)

テリー・ドゥワン/ デザイナー

ウーゴ・ラ・ピエトラ/ 建築家

JJ マーチン/ ジャーナリスト (ウォールペーパー、ウォールストリート・ジャーナル)

リヴィア・ペラルド・マットン/ エルデコ・イタリア ディレクター



マルコ・プレダーリ/ ユニバーサル・セレクトタ、アッソウフィーチョ会長 (FLAE 社オフィス家具部門)
セルジオ・リーヴァ/ デイルモス
ダニエル・ライバッケン/ デザイナー、サローネサテリテ コンパツツ・ドーロ 2014 受賞
スタジオ・アドリアーノ(ダビデ、ガブリエレ)/ デザイナー、サローネサテリテ コンパツツ・ドーロ 2014 受賞
マルヴァ・グリフィン・ウィルシャー/ サローネサテリテ・キュレーター

● ライフ・プラネット

ミラノ万博のドレスリハーサルにふさわしく、第 18 回サローネサテリテでは、ミラノ万博のテーマである「地球に食料を、生命にエネルギーを」にちなんで、「ライフ・プラネット」をテーマにしたインスタレーションの特別プロジェクトを開催。4 つのインスタレーションは 3 人のサローネサテリテ出身デザイナーとデザイン学校:

「グラビティ、隠された成分」by UMZIKIM (ヤン・ジェヒョク)

若い韓国人デザイナー。空間におけるグラビティ。Piazza N.1。
プレゼンテーション: 4 月 15 日(水) 11:30

「ハニー・ファクトリー」by フランチェスコ・ファッチン

古代と現代の養蜂技術。Piazza N.2。
プレゼンテーション: 4 月 15 日(水) 16:30

「ネスティング・ネイチャー」by カテリーナ・ティアッツオルディ

フロリダの国立公園のエコシステムをヒントにヤシの葉で作ったリラクゼーション。Piazza N.3。
プレゼンテーション: 4 月 14 日(火) 15:30

「5 つのエLEMENT、抽象的なガーデン」by

アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン(アメリカ、パサデナ)

自然の資源との強い結びつきを表す 5 つの要素: 土、水、火、風、空をテーマ。Piazza N.4。
プレゼンテーション: 4 月 16 日(木) 11:30

会場内では、この 4 つのインスタレーションのデザイナーと、ジャーナリスト、作家のクリスティーナ・ガベッティとの対談も行われます。

● サローネサテリテ・アワード

4 月 15 日(水) 15:00 パビリオン 22 サローネサテリテ・アリーナにて

各国から厳選された約 700 人の若手デザイナーによる展示に加え、今年で第 6 回目を迎えるサローネサテリテ・アワードは、隔年開催見本市に進じたプロトタイプ 1 つ以上が対象となります。今年にはエウロルーチェと Workplace3.0/サローネウフィーチョの年。厳選な審査のもと 1 位から 3 位までの入賞者には、賞金に加え、入賞作品の普及を目的としたコンサルタント及びプレス・サポートが約束されます。



審査員:

ギ・クロード・アグボトン/ IDEAT フランス編集長

パオラ・アントネッリ/

フィリップ・ジョンソン建築事務所、NY MoMA 美術館 デザイン部門 シニア・キュレーター

カローラ・ベステッリ/ リビング社アートディレクター (Salone del Mobile 出展社)

クラウディオ・フェルトリン/ アルペール社社長(Workplace 3.0 出展社)

ダヴィデ・グロッチ/デザイナー(Euroluce)

フロリアン・カルス/ 「KaschKasch」デザイナー。2013,2014 年サローネサテリテ出展

マテオ・クライス/ ヴイトラ・デザイン・ミュージアム館長

ロレダーナ・マスケローニ/ ドムス・イタリア副編集長

● 第 16 回 デザイン・レポート・アワード

4 月 16 日(木) 16:00

● サローネサテリテ・カタログ

以下サイトよりダウンロードできる予定です:

www.salonemilano.it/en-us/PRESS/SaloneSatellite-2015-catalogue

● Issuu よりダウンロード & 保存も可能

www.issuu.com/isaloni/docs/catalogo_satellite2015/3?e=

● APP STORE

<http://salonemilano.it/en-us/INFO/Mobile-App>

*公式サイトよりリンクをご確認ください

● 「ラ・リナシェンテ」コラボレーション

今年もミラノ・ドゥオモ広場の「ラ・リナシェンテ」内、デザイン・スーパーマーケットにて、2015 年度出展作品の中から厳選された作品が 9 月からクリスマスまで店頭に並びます。

● ADI (イタリア工業デザイン協会)

今年もサローネサテリテは ADI と提携し、希望者にはイタリア国内において特別に作品のデザインの保護をサポートします。

-



<Salone del Mobile.Milano 2015 のトレンド分析>

● サローネ国際家具見本市

2015年のデザインは今までも増して完成度の高いデザインと言える。長年ミラノサローネは、世界最大の商業チャンスの場として君臨してきた。それはまるで先進的なデザインのトレンドのリトマス紙とさえよ。さて、今年の傾向は？

「物語」が2015年のキーワードだ。歴史を語り、環境を作り、生産し、着色する「デザイン」は昔、技術的なカテゴリーに置かれていたが、今日では、マグマのように裾野が広がり、ライフスタイルに不可欠な要素となった。「美」についての「物語」は2015ミラノサローネの真のテーマだ。誰もまだ足を踏み入れたことのない荒野を歩くように、どのデザイナーも各々が考える「美」を追求してきた。とりわけコンスタンティン・グルッチの椅子、「ISAMO」(マジス)はその象徴とさえよ。

デザインの物語を生むインスピレーションの一つは「場所」。2015ミラノサローネでそれが随所に見られる。その主立った「場所」は、「マイアミ」(80年代の画期的な修復)、「北ヨーロッパ」(ミニマリズムから生まれるパステルカラー)、そして「アフリカ」(エスニック)だ。

「アフリカ」を挙げたのは、セバスチャン・バーンのミニテーブル「Shorty」(TOG)や、ハイメ・アジョンやカッシーナが、ヨーロッパに於いてアフリカの影響をいち早く受けたからだ。スペイン人のデザイナー、アジョンは、ル・コルビジエの奇妙な木像について「まるで宗教への挑戦だ」と述べた。イタリアのデュオ、ルチディペヴェーレは、モンゴルの山々に発想を得てデ・パドヴァの新しいソファ、「Yak」をデザイン。ラファエッラ・マンジャロッチとマルコ・ラヴィーナのセッラルンガのランタン、「ハニー」は、遠く中国に想いを馳せた。更には、若手イタリア人デザイナー、ジョルジョ・ボナグロは、ドリアデから塊茎ステンドグラス入り透明パイレックスの花瓶「ROOT」を発表した。

しかしエスニックは「ローカル」ブームの中で色褪せつつある。「ローカル」はグローバル市場征服を願う今日のテーマだ。50年代には世界的に認められる美が切望されたが、ロナン&エルワン・ブルレックが、アルテックから発表した「Kaari」シリーズは、木材が、折れ曲がったメタルに支えられているシンプルな職人技で、70年代のスウェーデンを彷彿させる。

また、近年勢いを見せているフード・デザインでも「ローカル」の手工芸は不可欠な存在になってきている。職人技術による製造が最新のトレンドの一つだ。例えばアレッシェ。ブナの木のまな板やお皿にはヴァッレ・ストローナの職人が、マルセル・ワンダーのデザインを彫っている。

ローカルブームに並び、昨年からデザイン界を支配しているノルディック・ミニマリズムは、今年もまだ会場内に見られる。特に興味深いのは、リビング・ディヴァーニから出たカシュカシュの「FJU」- 便利な壁掛けポケットになる簡易机や、ロレンツォ・ダミアニの「ベッド・シェアリング」(カンペッジ)は 複数のマットレスを必要なだけ使い、残りは折り畳んで「見せる家具」として収納できる優れたもの。また、ミニマルの象徴、クリスチャン・ヴェルナーのソファ「2002」(トネット)は、ダブルチューブ状の無垢材でシンプルにフレーム、床に直置きタイプのソファ。

トレンド発信地の一つとして挙げたマイアミ。今年は更にモスクワ、ドバイも加わり、この三角地帯は世界を跨いで豊かなデコレーション、キッチンでないマキシマリストという点で結びつく。それが見て取れる作品:ダンテ・オー・ベニーニ、ルカ・ゴンゾ、そしてアルバニア人アーティストの Helidon・Xhixha の鏡、「ジュネーブ」(フィアム)



や、ガブリエーレ&オスカー・ブラッティのラウンドテーブル、「Oto」(ガロッティ&ラディチェ、色:ブロンズ、銅色、青銅色)、そしてロドルフォ・ドルドーニのベッド「Iko」(Flou)。

この世界デザインの旅は、感動と特別なカラーパレットをもたらす。パントーネによると 2015 年の色はマルサラ酒色(実際には赤茶色)を初めとする、どれも酸化したような不透明なトーンが特徴。例えばサム・バートンが BOSA から出した新作の花瓶「...Issima!」(最高!の意)に選んだ 3 色は子ガモ色(OTTANIO=味わいあるグリーン)、ブルーベリー色、麦色。また、赤や紫のスフマート(ぼかし色)も健在で、ロン・アラッドのソファ「Glider」(モローゾ)など。

その他、2015 年の傾向として、「花瓶は花瓶」、「椅子は椅子」、と言ったトートロジー=同語反復の定義は、不安な世の中で確信を持って生きていくための暗示だ。その例として挙げられるのは、デイヴィッド・チッパーフィールドがドイツブランド、e15 より発表したオーク材の家具シリーズ、テーブル「Fayland」、長椅子「Fawley」、スツール「Langley」。また、吉岡徳仁の「Prism」(グラス・イタリア)、クリスタルでできた 2m のキューブ型鏡付きクローゼットは「Armadio Armadio (クローゼット-クローゼット)」シリーズ。また、ジャン・マリー・マッソーのアームチェア「サンタ・モニカ・ホーム」(ポリフォルム)は、完全にカバーされている姿がフランスの布張り椅子ベルジェールを彷彿させ、正に「bérgère-bérgère」だ。

一方、子ども用家具にもトレンドは潜んでいる。1952 年にアレキサンダー・ジラルドがデザインした磁石によって取り外し可能な木製の人形、「Wooden Dolls Cat und Dog」が、ヴィトラより再現。また、エンツォ・マリーデザインの知育玩具の復刻版、アリック・レヴィの「Concentric Puzzle」(ダネーゼ)。その他、ボーザより、サン・バーロンの「ユニコーン」、ハイメ・アジョンの「ペーパーエレファント」、イオンナ・ヴァトランの「exotic toucan(オオハシ)」、Lanzavecchia+Wai の「狡猾なキツネ」。そして遊び心満載のマルティエノ・ガンパーのイタリアン・デザイナーたち、スツールにウッドリングを絡ませたゲブルダー・トーネット・ヴィエナの「Cirque(サークル)」。

「デザイナー物語」を語るのに欠かせないのが、偉大なるデザイナー、シャルロット・ペリアンだ。美しく且つ勇敢で先見の目があった彼女の作品の復刻版は、近年カッシーナから発表されたが、フィリップ・ネグロによる防音加工されたパネル、「プレジデント」(カイミ・ブレヴェッティ)は、フランスのヒロインから恩恵を受けた作品と言えるだろう。

また、イタリアのアウトサイダー的存在で知られるカルロ・モリーノの作品を彷彿させるのは、ivdesign.it のコーヒーテーブル、「Schegge」(ヴァルセッキ 1918)。北欧の巨匠、タピオ・ヴィルカラ(1915 年生)が 1952 年に手がけた小テーブル、「Bird」もポルトローナ・フラウから復刻される。更に、2015 年は特に巨匠女性デザイナーたちのデザインもトレンドの一つ。ナンダ・ヴィーゴ。フォンターナからマンゾーニまで、60~70 年代の数多くのアーティストたちと自由に関わってきた。今年ドリアダから 1971 年のプフ「ブロッコ」が登場する。

ミラノ万博 2015 の幕開けを 10 日後に控えて開催する Salone del Mobile 2015。ミラノ万博のテーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを」だが、むしろオクイ・エンヴェゾー氏が選んだヴェネツィア・ビエンナーレ 2015 のテーマ、「世界中の人たちの将来」の方がしっくりいく。ミラノサローネは世界中のデザインの将来すべての物語を伝えることができるイベントである。



● エウロルーチェ 2015

2015 年はルーチェ=光の年。ユネスコが推進する「国際光年」である。エウロルーチェ併催イベントの「ファヴィッタ、一つの光、一つの声」を手がけたアッティリオ・ストッキによると、光とは物理現象としての光と言われ、また、近年、哲学者や神学者が書いているには、人間の歴史の原点にある叫び、「フィアット・ルクス = 光あれ」(ラテン語)を思い出させるように、形而上学的な現象としての光とも言われている。

2015 年はエウロルーチェの年でもある。その傾向を分析しよう。

家具部門とは全く様相が異なるエウロルーチェのパビリオンでは、LED 光源の急速な発展が、生産者とデザイナーの双方に大きな課題を与えている。従来の照明器具の概念を一旦白紙に戻し、LED の耐久性とその機能、また新たな形状に対応すべく、根本的な改革が求められている。その中で、照明業界は 2 つの全く両極端な状況に直面している。

一つは、従来の照明器具の**大幅な減少**から生まれる新しいデザイン。そしてもう一つは新しい機能を備えた昔ながらの**フォルムの再発見**。

一つ目の主な作品は、薄さ 1.5cm の PMMA(アクリル樹脂)を張ったアーネスト・ジスモンディの「**エッジ・ライティング**」(アルテミデ)。また、**ダヴィデ・グロッピ**の静かな光線を放つ「**Fosbury**」(ダヴィデ・グロッピ)や、**ビュロー・ファモス**の球状ランプ「**Orb**」(モードルーチェ)。

二つ目を象徴する作品は、**インゴ・マウラー**の白熱灯をモデルにした「**Monument for a bulb**」。また、若いノルウェー人デザイナー、**ダニエル・ライバッケン**による「**ストカスティック**」(ルーチェプラン)は、銀色のホウケイ酸ガラスの球が雲のように集まり、中から光を放つ。

その他、新しいフォルムへの挑戦は、トレンド、「**ナラティブ**」から見て取れる。例えば**アメデオ・G・カヴァルキーニ**の、テーブルに取り付けられるアームタイプの「**アストルフォ**」(ルメンセンター)や、**アリック・レヴィ**の「**鳥小屋=June Bird**」(ダネーゼ)。鳥小屋の中に仕掛けた金の卵がライトとなって光る。

20 世紀初頭のブルジョア階級が好んだ装飾へのノスタルジーは、**ガース・ロバーツ** デザインの「**fliegenbein**」(J.T.カルマー)が、床に着きそうなプリーツのランプシェードで表現している。また、**パロヴィエール&トーズ**の「**リンカーン**」は、球状に吹いたガラスの表面に昔ながらの技法である**バロトン**(網目模様)が施され、ピンクゴールドの本体に支えられている。また、ノスタルジックなロマン主義でありながら未来的要素を兼ね備えた**ロス・ラブグローブ**のサスペンションランプ、「**クロロフィル**」(アルテミデ)は、宙に舞う葉が光を放ち、その陰影が見事な演出を醸し出している。**オド・フィオラヴァンティ**の「**Volée**」(フォンタナアルテ)は、テニススタイルのジェスチャーをするだけでライトが付く仕掛け。8 時間後には自動消灯機能付き。

エウロルーチェ 2015 もまた、サローネ国際家具見本市と同じく、最も重要なトレンドは、いかに物語を語れるかで、現代のデザイナーたちも十分**ストーリーテラー**と呼べるだろう。



< 3 大インスタレーション >

● FAVILLA ファヴィッラ エウロルーチェ併催イベント

「ファヴィッラ」とは「閃光」の意。Salone del Mobile.Milano 期間中、ミラノ市内の市庁舎裏にあるサン・フェデーレ広場に巨大ブラック・ボックスが設置され、光と音のインスタレーション「ファヴィッラ」が開催されます。

2015 年は、ユネスコが定める「光と光技術の国際年(国際光年)」であり、エウロルーチェの年でもあります。それに肖った特別イベント「ファヴィッラ」。「一つの光、一つの声」という副題のプロジェクトを手がけたのはアッティリオ・ストッチ。過去にもミラノサローネ併催イベント「クオーレ・ボスコ(2011)」、「リープロ・チェロ(2012)」を手がけた建築家です。

光とは単に明かりを灯すもの、という概念から離れ、光そのものが持つ神秘に迫る。光がどのような道をたどって私たちに届くのか、光の本質的性質、物質的性質とは何か。「ブラック・ボックス」と名付けられた巨大な没入型の光の空間でその答えを読み解きます。「ファヴィッラ」はブラック・ボックス内に潜み、クリスタルのような強い光を放ちます。それはまるでジオード(晶洞)のように、感動を生む世界の発掘へと導きます。光のプレゼンテーションは「一つの光」と「一つの音」が対になって構成され、まるで光が「人」のように見え、音が「声」のように聞こえます。

「ファヴィッラ」の構成は、古代ギリシャ悲劇をモデルとしています。「神は云った。『光あれ。』すると光が出来た。」のプロローグから始まり、4つのエピソード - 4つの合唱 - エピローグという構成。メインである「4つのエピソード」は、1704年出版のニュートンの主著のひとつ、「光学」に記されている光の粒子論、「粒子と波動の二重性」に基づき、4つの光:「直線」「回折」「反射」「屈折」による光の伝播を可視化します。更には「合唱/間奏曲」として、自然光が織りなす神秘、「太陽光」、「クロロフィルによる光合成」「虹」等のインスタレーションで光のショーが繰り広げられます。

期間: 4月14日(火) - 19日(日)

時間: 11:00 - 23:00

場所: Piazza San Fedele, Milano (スカラ座の向かいにある市庁舎の裏)

入場: 無料



● The Walk

Workplace3.0/サローネウフィーチョ併催イベント

ワークスペースへの新提案をテーマにした巨大インスタレーションを手がけるのはミケーレ・デ・ルッキ。パビリオン 22, 24 号館の Workplace3.0 にて、4 月 14 日から 19 日まで開催されます。

「ワークスペースとは、スポーツジムに例えて言うなら、『脳を鍛える場』であり、人と人との関係が新しいアイデアと可能性が産む。」と、ミケーレ・デ・ルッキはコメントします。「未来型オフィスは、形式にとらわれないライフスタイルがビジュアル化されるべきで、常に新しいアイデアが溢れ出る空間であるべき。」

めまぐるしく変化する時代においてオフィス環境は、社会、経済、文化の変化に敏感に対応が求められています。「The Walk」は、「立ち止まることのない」という社会現象のメタファーです。「歩くアートとは、世の中を違う角度から見るができるビジュアル・アート」と、イタリア人作家、Wu Ming2 の言葉にあるように、歩き続けることの大切さがこのプロジェクトの裏に秘められたテーマです。

オフィスの中においても、じっと留まらず動き続けることで、オフィスの中の風景と外の景色が、オフィスをより刺激的な空間にする大切な要素となります。ところが現実には、受付やキッチン、観葉植物で飾られたコーナーなど、仕事場と離れたスペースがより重視され、会議室や通路が、仕事場そのものより、ずっと快適な場となっています。今回の展示では、4 つのテーマに分かれた展示 -「クラブ」「フリー・マン」「アゴラ」「ラボラトリー」- を通してワークスペースの新たな提案をします。

クラブ

コミュニケーション・プラットフォームとなる場。人と人が出会うこのクラブは、あえてインフォーマルでありながら、まるでホテルや空港のロビーのように居心地の良い空間。このスペースには、デスクもなければ、そこに留まる義務もない、新しい概念のフリーなオープン・オフィス。クラブ内では全てがより良い仕事ができるよう工夫されており、コーヒーや軽食が昼夜通してできる環境となっています。

フリー・マン

ワークスペースは、クリエイティブでプロダクティブな意見交換の場。同時に、「自分」と「他人との関わり」のバランスが大切になります。独り集中して考える必要もあれば、他人と意見交換する必要もある。オフィス環境は人との交わりがとても重要であり、刺激的で、エキサイティングで、クリエイティブであることが理想。個人の創造性を養いながら、グループワークのポテンシャルを高める。同時に適度な距離が置ける安全な場で、誰にも邪魔されず商談できる場を理想とします。



アゴラ

アゴラのパビリオンでは、様々なタイプのビジネス・スペースが選択可能です。カンファレンス、プレゼンテーション、映写、展示、ショー、催事など用途に合わせて選べるスペースは、コミュニティ意識を高めます。

ラボラトリー

その名の通り、ここは作業場。書類やプレゼン資料のほか、3D プロトタイプ、画像や映像、ソフトウェア、アプリケーション等もここで作成します。ここでは手作業を学んだり、新しいツールを試用したり、創作作業、アップデートなどしながら、コミュニティを生み、信頼関係を築くことに役立たせます。

「The Walk」のワークスペースは緑豊かなガーデンに囲まれ、より良い仕事ができる環境を提案。花の香りを楽しみながら季節の移り変わりを肌で感じ、自然の美しさを再認識します。

ハイブリダイゼーション(異種混合)を起こして生まれる雑草のように、特定の規則や知識に縛られない「野性的な場所」で育つ「クリエイティブのつぼみ」ほど、豊で活気に満ちた花を咲かせる。故意に「放置」したオフィス環境は、より肥沃な種の発芽に最も適している場といえる。

痩せた土地では、人は健康を害し、その能力を充分発揮することができない。だからこそ、アートがワークスペースに必要不可欠であり、人々の感覚と想像力を研ぎすませ、インフォーマルな仕事環境を創り出すことで、一日のストレスが軽減され、より良い人間関係を築くことができるでしょう。

オープニング: 4月14日(火) 12:00 24パビリオンにて(招待客のみ)



● IN ITALY

卓越したイタリアン・ライフスタイルを物語る新アプリ/生産過程の秘話を公開

「私たち(イタリア人)はピッコロ・レオナルド。その素晴らしい DNA を受け継いで唯一無二のマスターピースを世に送り出してきた。」と記者会見で述べたのは、アッサレード(FLA Eventi 社家具部門) 副部長 ヴィットリオ・リヴィ氏。2015 年 Salone del Mobile.Milano の開催時に公開される新しいアプリを通して、今まで語れることのなかった生産過程での秘話が明らかになります。

IN ITALY とは？

IN ITALY で紹介されるのは、5 つの異なる「イタリアン・ライフスタイル」。120 を超えるビデオを通して企業の歴史、変遷、物作りに託された職人技がどう伝承されてきたか、を公開。芸術を象徴するイタリアの美しい自然の風景の中でカメラが回ります。レッチェ、ミラノ、ローマ、ヴェネツィア、ヴァル・ドルチャ(オルチャ溪谷)。舞台となるこれらの街は何世紀にも渡る歴史と共に、その美しさを積み重ねて来たシンボリックな街。そして、その美しさがこの世に二つとないデザインや家具を生み出してきました。

イタリアに魅了され集まって来た 5 人のデザイナーの手により、アプリへのマルチメディア・インスアレーションが実現。アプリの操作画面からビデオ再生などを通して、其々の企業プロフィールから、物作りの裏に隠された秘話を知ることができます。

「フォー・イン・ザ・モーニング」と名付けられたプロジェクトを監修したのは、ダリオ・クラートロ。インテリアはカロリーナ・ニシヴォッチャ建築スタジオ、インテリア・デザイン・ラヴァイオリシレンツィスタジオ、カンディーナ・ザネリ・スタジオ、カメラネージ・ポンピーリ。

Why IN ITALY

ミラノサローネ国際家具見本市を運営する FLA Eventi 社は、各企業が各々について世界へ発信できる画期的なツールを与え、イタリアの 64 の企業が一つのプロジェクトのために初めて結集し、それぞれの「イタリア風ライフスタイル」を語りました。

イタリアで作られたものが、いかに他と違うかを、より世界に知ってもらう為の企画。「オンリー・イン・イタリア」の意味が込められたプロジェクト。千年以上の歴史の中で培ってきた揺るがない物作りに対する魂、そのクオリティ、そこから生まれる唯一の作品群。

イタリア製品を手にするとき、ほとんどの人はその商品の裏に隠されたストーリーを知らない。企業の変遷、その土地の長い歴史、その伝統のもとで培われてきた文化、受け継がれてきた職人技術がいま結集し「唯一無二」を創り出す、それがイタリアン・ライフスタイルであると誰もが気づくことでしょう。

オープニング: 4 月 14 日(火) 14 パビリオン (招待客のみ)



<レオナルド 1452～1519. 世界のデザイン展 >

イタリアで未だかつてない規模のレオナルド・ダ・ヴィンチ展。ミラノ市とイタリア美術出版社スキラの15年以上のパートナーシップにより実現、Salone del Mobile.Milano 開催に合わせて、またミラノ万博開催に先立ちオープンします。キュレーターは、「最後の晚餐」壁画修復を主導したことで知られるダ・ヴィンチ研究家のピエトロ・C・マラーニ、ルネサンス美術の権威でダ・ヴィンチ研究の第一人者として著名な美術史家、マリア・テレサ・フィオリオの2人。更には顧問にメトロポリタン美術館の主任学芸員/カルメン・ヴァンバック、フィレンツェ美術館特別監督局長官/クリスティーナ・アチディーニ、アンブロジーアーナ図書館館長/フランコ・ブツィ、ロンドン・ナショナルギャラリー・キュレーター/ニコラス・ペニー、バチカン美術館館長/アントニオ・パオルッチ、ウッフイツィ素描版画館館長/マルツィア・ファイエッティ、ルーブル美術館絵画部長/ヴィンセント・ポマレードなど蒼々たるメンバーが名を連ねます。会場内では「最後の晚餐」修復に関する資料もパネルやコンピューターで紹介。また、会場外のスフォルチェスコ城やアンブロジーアーナ図書館でも併催されます。

期間: 4月16日 - 7月19日

時間: 月 14:30 - 19:30、火-水 9:30 - 19:30、木-日 9:30 - 24:00

場所: Palazzo Reale, Milano - ミラノ王宮 (ドゥオモ横)

<フォード・ラウンジ>

3年目になるフォード・モーター・カンパニーによる「フォード・ラウンジ」(13パビリオン:エウロルーチェ展示場内)。この商談に適したラウンジは、フォード・スタイルを楽しめるデザインとなっています。フォードは今年、エウロルーチェ併催イベントの「FAVILLA」のインスタレーションのコラボレーションも手がけ、益々デザインへの関心の高さを示しています。

<ICE、イタリア貿易振興会コラボレーション>

国外の来場者集客及びより質の高いB2Bマーケティングに貢献。

<クロージングセレモニー>

4月19日(日) 11:30

ロー・フィエラミラノ コングレスセンター内 オーディトリウム



<お役立ち情報>

● ソーシャルネットワーク

ミラノサローネに関するホットな情報は、オフィシャルサイトより各ソーシャルネットワークでご覧になれます:

Facebook、Twitter、YouTube、Flickr、Linkedin、Pinterest
blog.isaloni.it

Twitter hashtags: `iSaloniofficial:

#iSaloni|#EuroCucina|#SaloneBagno|#SaloneSatellite

● プレスオフィス

南ゲート、サービスセンター内(見本市開催期間中)
初日より3日間、日本語対応。

● インフォメーション・スタンド 今年も設置！

昨年好評だったインフォメーション・スタンドが、今年も空港やミラノ市内の鉄道駅、地下鉄に配置されます。ミラノ市と、モーダ・デザイン協会とのコラボレーションにより、市内デザイン学校(IED、ドムス・アカデミー、Naba=Nuova Accademia di Belle Arti Milano、ミラノ工科大学)の生徒が参加してくれます。また、フィエラミラノ、SEA(空港)、ATM(市内交通機関)の協力を得て、マルペンサ空港ターミナル 1、リナーテ空港、中央駅、カドルナ駅、ガリバルディ駅、ドゥオモ駅、サンバピラ駅、ローフィエラ駅、ブレラ・ラルゴ・ラ・フォッパ広場にスタンドが設置され、各校から配置される総勢 100 人の生徒が、フィエラ会場へのアクセスや市内イベントの案内をします。更にミラノ市の提案により、サローネとフォーリサローネの案内図も配布します。

● 地下鉄切符と来場者入場券の統一

今年も会場主であるフィエラミラノとミラノ地下鉄運営会社 ATM の合意により、**地下鉄切符付き入場券**がオンライン来場者入場券の事前購入に限り販売されます。
プレスパスは対象外になります。

● 特急列車 ローフィエラ駅直結 ディスカウント

イタリア国鉄、トレニタリア

フレッチャロッサ、フレッチャビアンカ、エウロシティがローフィエラ駅へ毎日、トレニタリアとフィエラミラノのコラボレーションにより、来場者、出展者、プレスの入場券でディスカウント。来場者には、オンライン事前購入(www.salonemilano.it) 時に入場券との割引セット料金や、往復割引があります。割引対象の列車は、ローマ、フィレンツェ、ボローニャ、トリノ、ヴェネツィア、トリエステとミラノを結ぶフレッチャロッサ、フレッチャビアンカ。ディスカウントチケット購入は入場券のコピーを添え



て Ventana Group 旅行代理店まで: Strada Statale del Sempione 28, Rho. Tel: 02.45402049 - fieramilano@ventanagroup.it

● 航空券ディスカウント

- スカイチーム

出展者、業界関係者とジャーナリスト対象。

国際線 5-15% オフ (対象期間: 2015 年 4 月 9 日 ~ 24 日 搭乗、ミラノ発着便)

- アリタリア

来場者対象。

国内線 10% オフ (対象期間: 2015 年 4 月 9 日 ~ 24 日 搭乗、ミラノ発着便)

詳しくはこちら: www.alitalia.com, www.alitalia.it

● アクセス及び宿泊に関してのお問い合わせ

FLA Eenti 社提携旅行代理店まで:

Superviaggi srl

<http://www.superviaggi.com/en>

● 会場マップ

<http://www.milanosalone.com/kaijyou/index.html>

● スマートフォン専用「Salone del Mobile.Milano 2015」無料アプリ

今年は更に充実した無料アプリ、「Salone del Mobile.Milano 2015」で、お手元の各種スマートフォン (iPhone、iPad、Android) より出展者情報やパビリオンマップをお手軽に確認できます。

<http://salonemilano.it/en-us/INFO/Mobile-App>

● 2015 年出展社リスト

<http://salonemilano.it/en-us/VISITORS/Salone-Internazionale-del-Mobile/Exhibitor-list>

● FLA Eventi オフィシャルサイト

www.salonemilano.it

オフィシャル日本語サイトも是非ご利用ください。

www.milanosalone.com

2015 年 4 月 14 日 ミラノ

プレス インフォメーション: ラファエッラ・ポリーニ